

経営比較分析表／団体全体（令和元年度決算）

鹿児島県

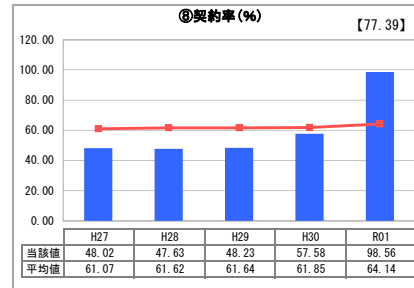
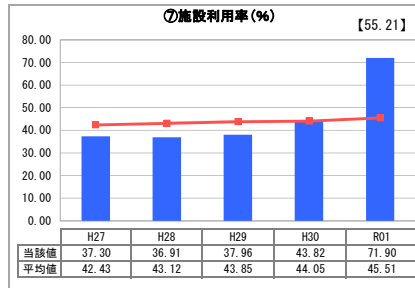
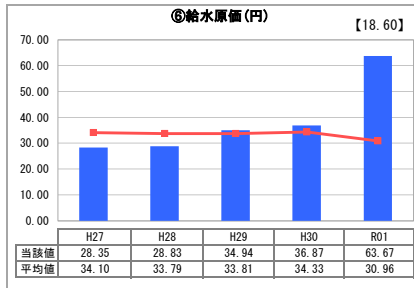
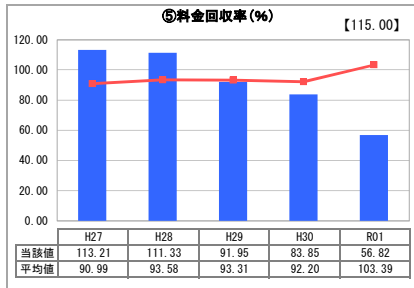
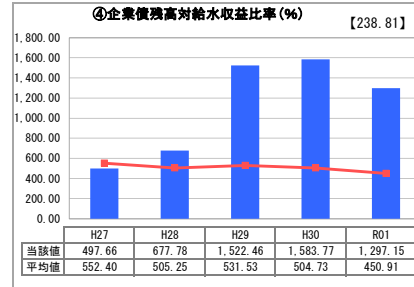
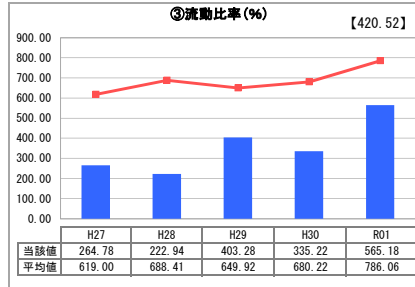
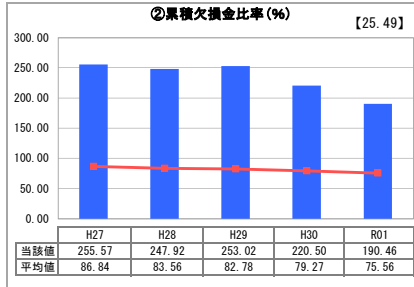
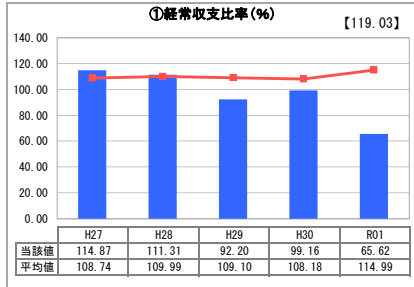
【事業概要】

業務名	業種名	現在配水能力(合計)(m ³ /日)	類似団体区分	施設数	1日平均配水量(m ³)
法適用	工業用水道事業	18,600	小規模	1	13,374
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	給水先事業所数	契約水量(m ³ /日)	管理者の情報	
-	51.9	44	18,332	非設置	

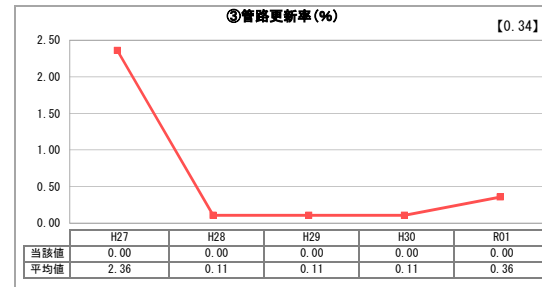
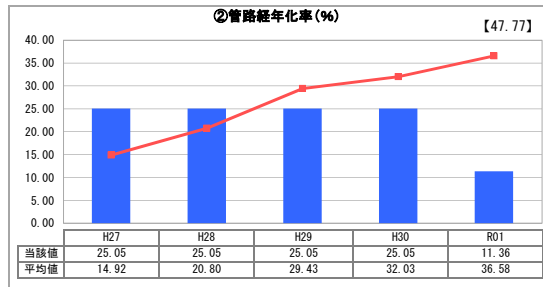
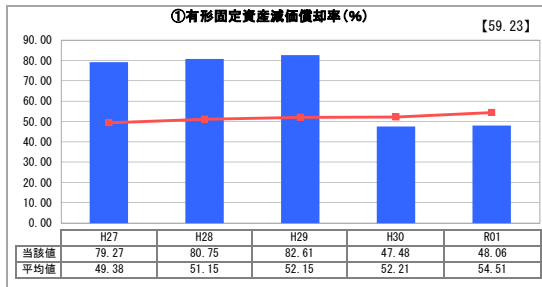
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ① 経常収支比率については、H29以降は100%を下回っているが、今後は段階的な料金改定や永田川施設処分費用の減少等により、100%以上に回復することが見込まれる。
- ② 累積欠損金比率については、料金改定による給水収益の増加に伴い今後の改善が見込まれる。
- ③ 流動比率については、100%を大きく上回っており、短期的な債務に対する支払い能力は十分である。
- ④ 企業債残高対給水収益比率については、万之瀬川施設の整備資金を企業債で賄っているため増加しているが、整備完了に伴い、今後は減少が見込まれる。
- ⑤ 料金回収率については、H29以降は100%を下回っているが、料金改定に伴う供給単価の増加、及び永田川施設処分費用の減少に伴う給水原価の減少により、今後は改善が見込まれる。
- ⑥ 給水原価については、永田川施設処分費用の計上により一時的に増加しているが、処分完了後は減少が見込まれる。
- ⑦ ⑧ 施設利用率及び契約率については、類似団体を下回る状況が続いていたが、万之瀬川施設への移行により、浄水・配水施設のダウンサイジング化が図られ大幅に改善している。

2. 老朽化の状況について

- ① 有形固定資産減価償却率については、万之瀬川施設への移行に伴い固定資産の更新が図られたことで類似団体平均値を下回っている。
- ② 管路経年化率については、万之瀬川施設に移行したことにより減少した。
- ③ 管路更新率については、「工業用水道施設更新・耐震・アセットマネジメント指針」の施設更新指針により診断を実施したところ「健全」との評価がなされたところであるが、今後、中長期的な計画を立て、更新を実施していく必要がある。

全体総括

経営の健全性・効率性については、H27からR3にかけて、給水料金改定を実施することに伴い、給水収益の増加が見込まれる。
また、移行した万之瀬川施設においては、施設のダウンサイジング化や、施設の立地を活かした自然流下方式による配水等により、維持管理費の削減が図られている。
今後とも、契約水量の維持・拡大や経費の削減に努めることにより、経営の安定化・効率化に取り組む必要がある。